

施策事例 ③ 農山漁村振興関連施策

山形ガールズ農場～女子から始める農業改革！と村山市地域おこし協力隊～

自治体情報

山形県村山市

人口 / 26,878人

標準財政規模 / 7,559百万円

担当課 企画財政課

電話番号 直通 0237-55-2111

実施主体 農業生産法人 国立ファーム 山形ガールズ農場、村山市

関連ホームページ <http://www.city.murayama.lg.jp/0140zaisei/ijuu-info1.htm>

事業期間 平成21年度から

関係施策分類 ②、④

予算関連データ

総事業費：9,360千円（H24）

名称	所管	金額(千円)
一般財源	—	4,680
青年農山漁村協力隊プロジェクト事業補助金	山形県農林水産部	4,680

施策のポイント

全国からの公募に応じた“やる気のある女子”が、山形に住所を移して、山形県民村山市民となって、農業を主に営みながら、積極的に地域づくり活動も実践している。

総務省が提唱する外部人材活用による地域活性化政策である「地域おこし協力隊」の制度が開始された年とこのグループが発足した年が一致し、この制度による財政的支援があったことが、このグループのアクティブな活動を支えている。

また、山形ガールズ農場を卒業したメンバーが、地元の農家の“農業後継者”となって活動し始め、地元定着に結びついている。「女子だけで農業」という発想は斬新で、まさに今の農業や産業界に必要なイノベーション（革新性）を持ったグループであるということができ、また、そこには、大いなる可能性が感じられる。

施策の概要

1. 取組に至る背景・目的

○山形ガールズ農場の代表の高橋葉穂子氏が、首都圏で学生時代を過ごす中で、「将来、母となる女性たちに、もっと食や農業を知ってもらいたい」と感じ、地元山形・村山に帰り、家業を継ぐことを決心したことに始まる。

ある時、国立ファームの高橋がなり社長の講演を聞く機会があり、これで開眼。

親の反対もあったが、農業で食っていくことを決意。「女子だけで農業」という着想を得て、それを実行に移したのが、この「山形ガールズ農場」である。

2. 取組の具体的内容

①基本は農業活動～数多くの農業商品を開発（米、野菜（すいか、里芋等）、果樹（さくらんぼ、りんご等）

②県内初の地域おこし協力隊として、積極的に地域おこし活動に従事

③第1次産業としての農業生産のみならず、加工・販売と「6次産業化」を実践

④女子大生の農業体験プロジェクト～「週末は畑ステイ」の実践（3年間で50人の「未来の母たち」を受入れ）

⑤地域の企業、団体等と積極的に連携、ネットワークを形成

⑥マスコミ報道による地域の活性化（情報発信、報道による注目度のアップ）

⑦農業後継者の育成「女子だけ農業/農業を元気にする/本気の農業経営」

→この「山形ガールズ農場」の取り組みを、行政（市/県/国）が、財政的支援、情報提供などの支援、相談などの精神的支援により、側面からの各種支援を行っている。

3. 施策の開始前に想定した効果、数値目標など

○「山形ガールズ農場」は、20代女子だけでやる農業ということから、ある程度の期待はしていたが、平成21年の3人から、平成22年に3人を加え6人になったことから、注目度が一気に増し、さまざまなマスコミにも取り上げられるようになった。このことによる反響（注目度のアップ）は大きく、いい意味で市の広告塔の役割を果たしてくれている。

○20代女子のみという、若さ、柔軟性からか、次々と斬新なアイデアを立案し、それを実践に移している。その方法には学ぶところも多く、また行政にとっても刺激にもなっている。

4. 現在までの実績・成果

○（地域おこし協力隊の任命実績）

・平成21年度 1名、平成22年度 5名、平成23年度 7名、平成24年度 7名

○（地域行事等への積極的参加）

・山形ガールズ農場のメンバーは、地域行事（全国芋煮まつり/ご当地カレー決定戦等）へも積極的に参加したり、また自らで、地域に貢献するような企画（収穫体験ツアーなど）を立て実践したりしている。地域を元気にするために一役買って来ており、その意味で地域の活性化に大いに結びついている。

○（農業後継者育成の観点）

・農業後継者育成が課題とされる中、20代女子のパワーを存分に発揮し、マスコミ報道などによって、「農業」に対する関心を高めるのに大いに貢献している。

5. 導入・実施にあたり工夫した点や苦労した点とその対処法・解決策など

○「山形ガールズ農場」の設立時期と、総務省の「地域おこし協力隊」による支援制度ができる時期が、同じ平成21年という、まさに絶好のタイミングで一致した点が良かったといえる。

外部人材の活用による地域活性化、また、農林水産業に従事する場合適用されるといった条件が、山形ガールズ農場の場合、ぴったりと当てはまったことも幸いであった。

○（山形ガールズ農場側）初めてなので、いろいろな点で手探りの状態で進めなければならなかったことが苦労した点。（市側）農業法人ではあるが一企業であるため、農業に従事するのみならず、地域行事への協力、参加など地域との接点、地域貢献の機会を多くしてもらい、行政からの財政支援をするに、きちんと説明責任がつくように配慮したことが工夫したことのひとつ。

6. 今後の課題と展開

○将来的には、独立採算がとれるような経営状態にもっていくことが課題。農業の規模も大きくし、また、食事も提供できる店舗なども持ちながら、元気に楽しく、より充実させながら「女子だけ農業」をやっているようにすることが今後の展望である。